



INGING MOTORSPORT



INGING MOTORSPORT OFFICIAL WEBSITE OF PAPER [http://www.inging.co.jp]

INGING NEWS PAPER 2016 VOL.04



Race Report

Round.3 FUJI SPEEDWAY 7/17 Final
決勝 2016年7月17日 富士スピードウェイ

僅かなミスも
許されない
手に汗握る
接戦!!

TAKEFREE

Round.4 TWIN RING MOTEGI 8/20-8/21

Support by © cyber net

1000分の7秒差を制し、石浦、6位ポイント獲得!!

Race Report 決勝 2016年7月17日 富士スピードウェイ 天候:曇り | コース状況:ウェット
 Round.3 FUJI SPEED WAY 7/17 Final Time [1:25'56.261] / Best [1:26.875]



全日本スーパーフォーミュラ選手権第3戦の決勝レースは、わずかなミスが大きく結果を左右する、手に汗を流す戦いが終始繰り広げられた。予選2位の石浦はスタート直後にポジションを落とすと、6位まで挽回してポイント獲得。国本は他車からの追突を受け、悔しいリタイアとなった。

決勝日の富士スピードウェイも、上空は分厚い雲に覆われたものの、予選日のように雨が降ることはなく、路面状況は次第にドライコンディションへ。朝一番の走行セッションとなったスーパーフォーミュラのフリー走行も、ウェット宣言は出されたが、大半のマシがスリックタイヤでコースへと向かっていった。走行時間が20分を過ぎると、マシの通るラインは乾き全車がタイムを削っていく。石浦も最終に1分32秒837のトップタイムを記録。その後1台にかざされ最終的には2番手タイムとなったが、この週末で初めてドライタイヤを装着しての走行で、調子の良さを見せた。一方の国本はセッション終盤にブリュスコナーでスピンを止めたために、最後のアタックができずに決勝レースへと臨むこととなった。

気温、路面温度ともにフリー走行と比べ大きな変化なく、決勝レースを迎えることになったが、サポートレースの走行が続き、路面状況は完全に乾いた状態になった。スタート進行前に行われる8分間のウォームアップ走行を終え、石浦は2番手グリッドへ。上位のマシが1台出走を取り消したため、国本は12番グリッドへとマシを進めた。スタート直後のブラックアウトとともに抜群のスタートを見た2台は1コーナまででポジションアップを狙うが、石浦はホールシッターのステフェル・ババトンにつられる形でコースオフし、6番手までポジションを落とす。さらに4周目のブリュスコナーでもコースオフ、石浦は6番手から這い上げレースを展開していくことになった。

国本のマシがコース上にストロップしてしまったため、レースは16周目にセーフティカーが導入された。このタイミングではほぼ全車がピットイン。ガソリン補給のみでコースへと戻っていき、石浦も陣列に並びピットイン。このセーフティカー導入前にピット作業を済ませたマシがポジションアップに成功したため、石浦は10番手でコース復帰となった。20周目にレース再開、リスタート直後から、前を走るナレイン・カーティヤンとの激しい攻防が繰り広げられる。両者のラップタイムはほぼ同じで、わずかに相手が差を広げれば、翌周には他方が差を詰めかえすという戦いが、レース終盤まで

は争いながらまじに30周以上わたって続いていた。2

わじわと順位を上げていき、石浦は7番手で最終ラップイン。この時点で2台の差はわずか0.4秒だったが、最終セクターに入るダンロップコーナでカーティヤンがオーバーラップを喫する。このチャンスを見過さなかつた石浦は猛攻を仕掛け、2台は並走状態で最終コーナへ。ほぼ同時にチェッカーフラッグを受けるが、わずかに前に出たのは石浦。1000分の7秒差という目に見えないほどの僅差でバトルを制し、6位にポジションを押し上げてのゴールとなった。



#1 石浦 宏明 / H.Ishiura

「ババトン選手とのスタート争いはコーナで前に出たいと思っていたのですが、相手の勢勢につれて自分から入ってしまった。裏にアウトオブコースで走っていき、その後は追いつけなくていい勝負。最後は最後までチャンスを探っていました。他のドライバーは、オーバータイムやスラッシュを気にしているから、チーム目標で割り切りながら計算していたし、後ろから入ってポイント争いも多分考えてはなかったです。シリーズランキングも、今日のレースではポイントがなかったらどうかっては全然考えていません。レースは最後まで集中して走り続けたいです。後を走る車はいいですね、このレースは楽しかったです。」



#2 国本 雄資 / Y.Kunimoto

「1周目のヘアピンコーナで、後ろのマシに追突されてスピンを止めた。何とかならなくて、追い上げようと思ったんですが、マシンがコースを外れて、途中でリタイアした。あの瞬間に、本当に悔しかった。あの瞬間に、本当に悔しかった。あの瞬間に、本当に悔しかった。あの瞬間に、本当に悔しかった。」

監督 立川 祐路 / Y.Tachikawa

「石浦のスタート直後のコースオフは、決めた次第でやった結果なので仕方ないけど、自分も正直悔しかった。でも、その悔しさを、選手に伝えることができた。今日のレースではランキング上位にいたドライバーがポイントを獲得できなかった。チームメンバーとして、石浦選手を応援してあげたい。ミスは最中に犯ったものという話です。国本選手はスタートは良かったですが、オーバータイムを気にして、もう少し集中してほしい。石浦選手は、今日のレースで、いいレースを走ってほしい。そのために、チームがサポートしていきます。」



総監督 浜島 裕英 / H.Hamashima

「国本選手で上手くいかなかったレースになりました。止まってしまってもいいくらいで走っていました。ですから、アクシデントでマシが壊れてしまったのは本当に残念です。決勝中のタイムアップのことを聞いて、次回以降も頑張ってもらいたいです。石浦も、新しいレースに当たって、自分の力を見せたいと思います。2台ともに新しいレースになりましたが、そういう面では収穫もありました。これを後輩に活かしてほしいですね。」



好評発売中!

INGING MOTORSPORT x soccer junky.

(Racing Junky)

石浦選手 6,200円

S, M, L, XL

数量限定

- レース会場(富士スピードウェイ、鈴鹿サーキット)
- INGINGオフィシャルウェブショップ
- EURO SPORTS ONLINE STORE